

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	大阪大学	整理番号	K03
プログラム名称	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム		
プログラム責任者	尾上 孝雄	プログラム コーディネーター	清水 浩
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画を確実に実行しており、中間評価結果における指摘を真摯に受け止め対応がなされている。 ・ 特任教員の負担を軽減することを目的として、平成28年度よりオーストラリア国籍の特任教員を雇用するなど、英語での議論が可能な環境を整備している。 ・ 国際性の涵養に関して、シリコンバレー、サンフランシスコの大学等の研究機関、企業を訪問する海外研修、プレインターンシップ、及びインターンシップと、グローバル人材の養成に向けて様々な取組が行なわれている。 ・ 企画、運営に携わる様々な機会を通じた人材育成が確実に行われており、学生の自主活動が強く奨励されている。その結果、数々の学生発案企画が行われ、学生一人一人が、本プログラムに積極的に参画し、活用して成長している。また、学生が本プログラムを自ら創ろうという意識が本プログラムの成功につながっている。 ・ 融合研究テーマの中には博士論文と関連付けられるテーマも多数あるため、指導教員により専門研究、融合研究のバランスを効果的に充実させるようにしている。 ・ 学生企画・主導による融合研究プロジェクトのうち、経費支援を行った融合領域研究においては大学が想定した以上の成果を出している。 ・ 各学生への指導体制に産業界からの委員を加えるなど、日頃から産業界をうまく活用している。また大学が実施した学生アンケートによると、回答者のうち92%の学生が、企業を含めたアドバイザー委員の指導を受けたことが自身の成長過程に役立っていると回答している。 ・ 企業インタビュー、海外大学への訪問、海外や産業界等の講師によるワークショップやセミナーの開催など、様々な形で産業界・外部機関とのグローバルな連携が実施されている。 ・ 産学官協力によるカリキュラム点検が実施されている。 ・ 多様な質の高い学生を継続的に獲得している。 ・ 支援期間終了後の本プログラムの継続に向けて、大学全体計画・教育の全学構想において本プログラムの継承発展を検討しているほか、産業界との連携や議論を具体的に開始しているなど様々な取組が行われている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本プログラムの取組内容は高く評価できるものであるが、次の3点を是非ご検討いただきたい。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 支援期間終了後の規模感を踏まえ、より魅力的なプログラムとして仕上げていただきたい。学生との意見交換において、10名中7名が、奨励金がなければ本プログラムを受講しなかったと答えたが、奨励金がなくても受講したいと思わせる、より充実したプログラムとすべく益々の尽力を期待したい。 2. 本プログラムを大学院教育改革の良い模範として、学会などを通じて学外に広く公開していただきたい。 3. 修了後の学生の追跡評価を是非実施していただきたい。 			

- 平成 27 年 10 月に実施した現地調査後に新たに特任教員を雇用したが、学生総数も増えていることもあり特任教員の負担は依然として大きいと考えられる。
- 英語による講義が少ないこと、外国人教員が少ないこと、国際アドバイザー委員会に外国人がいないことなど、グローバル人材育成の観点で改善すべき点があると考ええる。